

# 安全データシート(SDS)

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称	TK PASTE CN-7120専用溶剤
会社名	化研テック株式会社
住所	大阪府交野市森北1丁目23番2号
電話番号	072-894-2590
ファックス番号	072-894-2592
担当部門	材料開発研究所 研究開発部
電話番号	0748-25-7510
ファックス番号	0748-25-7511
作成日	2018年2月16日

推奨用途及び使用上の制限 TK PASTE CN-7120ディスペンス使用時のニードル先端乾燥詰まり防止剤

## 2 危険有害性の要約

### GHS分類

#### 物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分3
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

#### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入: 気体)	分類対象外
急性毒性(吸入: 蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入: 粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対するまたは授乳を介した影響	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分外
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分外

#### 環境に対する有害性

吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(長期間)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

### GHSラベル要素

絵表示またはシンボル:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報:

引火性液体および蒸気  
皮膚刺激  
強い眼刺激

## 注意書き

## 【安全対策】

取り扱いに際しては安全データシート(SDS)をよく読むこと。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。  
 容器を密閉しておくこと。  
 容器を接地すること/アースをとること。  
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。  
 火花を発生させない工具を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 取扱後はよく手を洗うこと。

## 【応急措置】

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。  
 暴露した場合: 医師に連絡すること。  
 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
 火災の場合: 消火に粉末消化剤/二酸化炭素を使用すること。  
 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。  
 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

## 【保管】

施錠して保管すること。

## 【廃棄】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
 内容物や容器は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
 成分及び含有量

混合物	濃度または濃度範囲	CAS No.
化学名または一般名		
炭化水素系溶剤	80-90%	非公開
グリコール系溶剤	10-20%	非公開

## 4 応急措置

吸入した場合

大量の蒸気、ガスを吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。  
 呼吸が不規則か、停止している場合には人工呼吸を行い呼吸困難な場合には酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴等は速やかに脱ぎ捨て、皮膚に触れた部分を水、温水等を流しながら石鹼で洗浄した後、よく洗い流す。

眼に入った場合

直ちに豊富な清浄水で最低15分以上洗浄した後、眼科医の診断を受ける。  
 洗眼の際、眼球のすみずみまで水が行き渡るように洗う。

飲み込んだ場合

安静にし、直ちに医師の手当を受ける。  
 無理に吐き出そうとはならない。

## 5 火災時の措置

消火剤

粉末、炭酸ガス、泡が有効である。

使ってはならない消火剤

冷却の目的で霧状水を用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

燃焼した際、COを発生する恐れがある。

特定の消火方法

火元への燃焼源を絶ち、消火剤を用いて風上より消火する。

移動可能な容器は速やかに移動する。

周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移し、移動不可能な場合は容器及び周囲に散水し冷却する。

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業の際には保護具(有機ガス用防毒マスク、耐溶剤性手袋、保護衣、保護眼鏡)を着用し、蒸気の吸入や皮膚に触れる事を防止する。

環境に対する注意事項

流出物が排水溝や河川等に排出されないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合には、活性炭、乾燥砂、おがくず、ウエス等に吸収させて密閉式の空容器に回収する。

回収物は、産業廃棄物として処理する。

河川、湖沼へ流出した場合は、警察署、消防署、保健所、都道府県市町村の公害関連部署、河川管理局、

水道局、農協、漁協等に直ちに連絡をとる。

危険を伴わず漏洩部を塞げるならば一時的に噴出しを止め、開放された危険性のない場所に運びだし放出する。

## 二次災害の防止策

付近の着火源となるものは速やかに取り除き、機械を停止し、消火用機材を準備する。  
作業器具は、火花を発生しない安全な器具を使用する。  
放出中静電気により引火爆発の可能性があるので注意する。

## 7 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

**技術的対策** 作業場の換気を十分に行い、保護眼鏡、保護手袋等を着用し、直接の接触を避ける。  
取扱い場所は火気厳禁とし、作業場は換気を十分に行う。  
取扱いの都度、容器を密閉する。  
静電気、衝撃火花が発生しないような措置を講ずる必要がある。

**安全取扱注意事項** 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

**接触回避** 取扱う場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、酸素性のものを置かない。  
電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。

**衛生対策** 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
休憩所に手袋等の汚染した保護具を持ち込まないこと。  
作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。

## 保管

**安全な保管条件** 火気厳禁(引火点70°C未満の液体)  
保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。  
保管場所は決められた指定の場所に置くこと。  
容器は密栓し、直射日光を避け、換気良好な冷暗所に貯蔵する。

**安全な容器包装材料** 容器材料は、鋼板、ブリキ板等を使用し、破損、腐食、さけめ等がないものを使用する。

## 8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度	(安衛法 作業環境評価基準)	炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	未設定 未設定
許容濃度	日本産業衛生学会	炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	未設定 未設定
	ACGIH勧告値	炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	未設定 未設定
設備対策	全体換気を行い、密閉された設備、機器又は、局所排気装置を使用・設置することが望ましい。 取扱い場所近くに洗眼、及び身体洗浄のための設備を設ける。		
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	有機ガス用防毒マスク 耐溶剤性手袋 保護眼鏡 有機溶剤が浸透しにくい保護衣、保護前掛け、保護長靴	

## 9 物理的及び化学的性質

物理的状態	液体	爆発範囲	データなし
色	無色透明	蒸気圧	データなし
臭い	石油臭	蒸気密度	データなし
pH	化学的中性	比重	0.8 (25°C)
融点・凝固点	データなし	水溶解性	微溶
沸点	150°C以上	n-オクタノール/水分係数	データなし
引火点	29°C	分解温度	データなし
自然発火温度	データなし		

## 10 安定性及び反応性

**化学的安定性** 揮発性

**危険有害反応可能性** 通常の実験条件においては、熱、光、衝撃に対して化学的に安定である。  
酸化剤に曝すと発火の危険性あり。炎に曝すと中程度の爆発の危険性あり。

**避けるべき条件** 高温、混触危険物質との接触

**混触危険物質** 酸化剤

**危険有害な分解生成物** 燃焼によりCOが発生する恐れあり。

## 11 有害性情報

**急性毒性(経口)**

炭化水素系溶剤	データなし
グリコール系溶剤	ラット LD <sub>50</sub> >2500mg/kg

**急性毒性(経皮)**

炭化水素系溶剤	データなし
グリコール系溶剤	ラット LD <sub>50</sub> >2800mg/kg

皮膚腐食性/刺激性 炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	データなし ウサギの皮膚に軽度の刺激性が認められた。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	データなし ウサギの眼に重度の結膜炎が認められた。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	データなし ウサギに経皮投与後、昏睡が見られた。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 炭化水素系溶剤 グリコール系溶剤	データなし データなし

## 12 環境影響情報

生態毒性	データなし
残留性/分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	モントリオール議定書附属書に列記された成分を含んでいない。

## 13 廃棄上の注意

<p>残余廃棄物 ドラム等にいれ、横転しても内容物が外部へ流出しないように密栓する。 焼却する場合は産業廃棄物処理基準に従って焼却する。 外部委託の場合は、「特別管理産業廃棄物 廃油(引火性)」である事を明記して都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。</p> <p>汚染容器及び包装 ウエス等により拭き取り、金属容器の場合は「金属くず」である事を明記して都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。</p>
--

## 14 輸送上の注意

国際規制		
海上規制情報		IMOの規制に従う。
UN No.		1993
Proper Shipping Name		FLAMMABLE LIQUID, N.O.S
Class		3
Packing Group		III
Marine Pollutant		Not Applicable
国内規制		
海上規制情報		船舶安全法の規制に従う。
国連番号		1993
品名		その他の引火性液体
クラス		3
容器等級		III
海洋汚染物質		非該当
陸上規制情報		消防法の規制に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件		
	運搬容器の材質は金属製の腐食しない容器を使用し、容易に破損したり漏れるおそれのないものを用いる。	
	危険物の品名、数量等を表示して、転落、落下、転倒、破損ないように積載する。	
	"6 漏出時の措置"を参照。	
	"7 取扱い及び保管上の注意"を参照。	
	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確かめる。	
	転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷くずれ防止を確実にを行う。	
	該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。	
	引火性液体の一般的な注意事項を厳守する。	
	指定数量以上運搬する場合は、消火設備を備える。	
	「火気厳禁」等の表示をする。	

## 15 適用法令

労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則	有機溶剤に該当せず
	第57条 名称等を表示すべき有害物	該当せず
	第57条の2 名称等を通知すべき有害物	該当せず
	法施行令別表第1の4 危険物	引火性の物

化学物質管理促進法(PRTR法)	第一種指定化学物質	該当せず
	第二種指定化学物質	該当せず
消防法	危険物	第4類第2石油類 非水溶性
毒物及び劇物取締法		該当せず
危険物船舶輸送及び貯蔵規則		引火性液体類
船舶安全法		引火性液体類
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		特別管理産業廃棄物(廃油)(引火点70°C未満)

## 16 その他の情報

### 引用文献

- 1) JIS Z 7250 化学物質等安全データシート(MSDS)
- 2) JIS Z 7251 GHSに基づく化学物質等の表示
- 3) GHS対応ガイドライン(暫定版)
- 4) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)(2004年4月 関係省庁連絡会議仮訳)
- 5) WebKis-Plus化学物質情報データベース(国立環境研究所)
- 6) 安衛法便覧 平成10年度版(労働基準調査会)
- 7) 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部)
- 8) 化学物質情報(安全衛生情報センター)
- 9) 化学物質総合検索システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- 10) 新版 溶剤ポケットブック 有機合成化学協会編(オーム社)
- 11) 毒物劇物取扱の手引き(時事通信社)
- 12) 神奈川県化学物質安全情報提供システム(kis-net)
- 13) 原料のMSDS

---

危険有害性の評価は 必ずしも十分ではありませんので 取扱いには十分注意して下さい  
なお 含有量 物理化学的性質の数値は保証値ではありません  
また 注意事項は一般的な取扱いを対象としていますので 特殊な取扱いの場合はご配慮願います